

の意にては解し難く、種々考覈の結果は之は行夜人の略稱らしく、夜禁行夜の制の行夜の職役を擔ふ人々の組合である。支那に於ける夜禁行夜の制は其の緣由甚だ古く、既に周禮に司籥氏の官あり、唐代に於ても首都は左右金吾衛大將軍の指揮の下に金吾衛所屬の吏卒が、地方都邑に於ては折衝府の兵より選拔せられたる衛士が、それ〴〵此の任に當りしこと『大唐六典』其他に見ゆる通りである。但、從來知られてゐるのは官の吏卒が此の任に當ることのみにして、民庶大衆が如何に之に參與してゐたかは全然知られて居らなかつた。然るに茲に此の民間文

ボロトリとジグメナムカ

一昨年だつたか蒙疆の江實君からボロル・トリの寫本を見せられたので、早速副本一通を移寫さして貰つたのであつた。然してこの寫本は完本でないで、つい熟讀も研究もまだしないのであつたから、江君は少し不満である様に聞いた。さう云つてもボロル・トリと同じ様な名のものが他の解題に出てゐても、他本は少しも見られないんだから、僕なんかにはさう簡單に手が着けられない。さう云ふもののが出来たらやつて見たいと思つてゐる。何しろ僕の見得る唯一のものなんだから大いに關心は持つてゐるんだ。

先日滿洲の西嶋芳郎君からジグメナムカの蒙古佛敎史の蒙文本が滿洲で出たとの話を聞いた。ジグメナムカが佛敎史を西藏文と蒙古文とで書いたと云ふ事はフウトの刊本で分つてはゐるが、蒙古文の存在は不明で

書の在るに據りて中唐の半以來、庶民間に自主・自治・自衛的精神が旺盛となりて自主的に自警團を組織し、官の吏卒の任務遂行の補助機關として、或は郷里の聚落の自警團として進んで社會秩序の維持に努めたることを知り得たる譯で、坊巷住民親睦組合の存在を示す『社司轉帖』村里農家の自治的灌漑組合の存在を示す『渠人轉帖』と此の『行人轉帖』の三民間根本史料は中唐の中期以後の時代的趨向的、思想的に一連の脈絡を有するものと謂ふべきである。

あつた。西藏文本も希臘書でありフウト刊本すら珍しくなつて我國で覆印及び邦譯されるに至つたが、蒙古文本が傳世してゐて發見されたのは愉快な事である。たゞ最も遺憾とすべきは、我が盟邦滿洲國內で此の本は發見されたにも拘らず、どうやら某歐洲國人の手に落ちてゐるらしいのである。誰の手に落ちたとしても致方はないが、せめて副本の一通を我國に留めたいものと思ふ。

蒙疆や滿洲で續々といろんな蒙文書類が印行せられてゐる様だ。それは至極結構な話であるが、我等なんかには中々見られ難いのである。これ等のものの流傳が便利になる様に希望に堪へない。現地で研究して來たらいい様であるが、そんな便利のないものには致方もない。それにしても我國でも此等を研究するに便利であつても良ささうだ。否、我國で本當に研究出来る様にすべきだと信する。

(石濱孤寂)